

日本原子力学会の防災に関する取り組み (1/2)

1. 福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会

- 福島復興と廃炉推進に貢献する活動の一層の効果的・効率的な実施・推進を図る
- 平成28年5月20日に発足し、現在36学協会が参画
- これまでの連携活動として情報交換会（H29.1）で互いの活動を理解し、ワークショップ（H29.9）でニーズを把握した上で、関心の高い課題*について勉強会（H30.5）にて論点を整理し、どう取り組むべきかをまとめた

- *1)放射線被ばくと健康・リスクコミュニケーション
2)トリチウム水の取扱い
3)燃料デブリ取り出しにおける潜在的課題

日本原子力学会の防災に関する取り組み (2/2)

2. 特別国際シンポジウム「断層リスクに向き合う原子力安全のアプローチ」（日本原子力学会主催；平成30年5月31日東大）

- 原子力施設の安全性向上に取り組む際に、数多くの活断層が指摘されている我が国においては、断層のリスクに正面から向き合うことが求められている
- 海外の取組み、近年の地震から得られた知見、関連学協会の既往の検討成果などに基づき、国際的かつ分野横断の知見の共有を図り、断層リスクに向き合う原子力安全のアプローチに関わる議論を深める

【基調講演】

•Dr. Nilesh Chokshi 元米国原子力規制委員会規制局エンジニアリング部門副部門長「リスク評価、原子力安全～米国の経験」

•Dr. Kevin J. Coppersmith President; Coppersmith Consulting 「断層変位に対する対処事例」

【講演】

•遠田 晋次 東北大学国際災害科学研究所教授 「地表地震断層、断層変位ハザード」

•久田 嘉章 工学院大学建築学部教授 「断層変位直上や近傍の建物被害」

•酒井 俊朗 電力中央研究所原子力リスク研究センター上級特別契約研究員「断層変位に対するリスク評価の取組み」

•関村 直人 東京大学大学院教授 「原子力安全に向き合う姿勢」
パネルディスカッション 座長 高田毅士 東京大学大学院教授

3. 原子力総合シンポジウム（日本学術会議主催、関連学協会共催；平成30年10月22日）

- 原子力防災について、その考え方、一般防災との比較、シミュレーション技術の活用を取り上げる